

呼吸器外科

診療科のご紹介

阪神間の基幹病院として、呼吸器内科と協力し呼吸器疾患の外科手術を行っています。特に、肺がん、肺気腫、自然気胸や縦隔腫瘍は、傷が小さく、体の負担が軽い内視鏡（胸腔鏡）外科手術に積極的に取り組んでいて、年間全手術総数の約 8 割に達しています。

胸腔鏡下手術は傷が小さく、体に負担が軽く早期の退院や職場復帰が可能です。肺がんには根治手術を中心として、放射線療法や化学療法を併用した集学的治療を行っています。I 期～II 期の肺癌、高齢者や肺機能が低い肺がん患者さんには内視鏡（胸腔鏡）下手術で根治手術を行っています。肺がんの 5 年生存率は、早期肺がん（大きさ 2cm 以下）92%、I A 期 84%、I B 期 70%、II A 期 59%、II B 期 53%、III A 期 34%、III B 期 19%です。

肋骨と肋骨の間に 3mm から 1cm の穴をあけて内視鏡を胸の中に挿入して行う胸腔鏡下手術（内視鏡下手術）を積極的に行っています。従来の手術よりも傷の痛みが少なく美容上也優れた手術のために、早期の退院と職場復帰が可能です。中でも I 期の肺がんは、開胸器を用いず 100%ビデオモニター下にて肺葉切除や区域切除を行う完全胸腔鏡下手術（超低侵襲手術）に積極的に取り組んでいます。肺がんが気管・気管支に浸潤して呼吸困難となった患者さんを対象に、呼吸困難を解除させるためにシリコン性チューブを挿入するステント留置術を行っています。

青少年に発生しやすい自然気胸の治療は胸腔鏡を用いてブラを焼灼したり、切除したりします。レーザーでブラを焼灼する手術は「針状胸腔鏡」を使用するために傷の長さが 2mm と小さく傷はほとんど目立ちません。3ヶ月後に傷は消失し、その再発率は 2%です。

診療科で対象とする症状

- 胸痛
- 血痰
- 呼吸苦
- 呼吸困難

診療科の対象疾患

- 肺癌
- 転移性肺腫瘍
- 縦隔腫瘍
- 自然気胸
- 胸壁腫瘍
- 膿胸など

トピックス

当院は NCD:National Clinical Database 事業(外科系の専門医制度と連携したデータベース事業)に参加しています。(http://www.ncd.or.jp/)